

貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

会計: 全体会計

(単位: 円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	476,687,696	固定負債	-
有形固定資産	30,200,136	地方債等	-
事業用資産	5,525,153	長期未払金	-
土地	-	退職手当引当金	-
土地減損損失累計額	-	損失補償等引当金	-
立木竹	-	その他	-
立木竹減損損失累計額	-	流動負債	5,828,859
建物	29,715,000	1年内償還予定地方債等	-
建物減価償却累計額	-24,189,847	未払金	-
建物減損損失累計額	-	未払費用	-
工作物	-	前受金	-
工作物減価償却累計額	-	前受収益	-
工作物減損損失累計額	-	賞与等引当金	5,154,930
船舶	-	預り金	673,929
船舶減価償却累計額	-	その他	-
船舶減損損失累計額	-	負債合計	5,828,859
浮標等	-	【純資産の部】	
浮標等減価償却累計額	-	固定資産等形成分	476,687,696
浮標等減損損失累計額	-	余剰分(不足分)	76,792,105
航空機	-	他団体出資等分	-
航空機減価償却累計額	-		
航空機減損損失累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	-		
インフラ資産	-		
土地	-		
土地減損損失累計額	-		
建物	-		
建物減価償却累計額	-		
建物減損損失累計額	-		
工作物	-		
工作物減価償却累計額	-		
工作物減損損失累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	-		
物品	183,030,197		
物品減価償却累計額	-158,355,214		
物品減損損失累計額	-		
無形固定資産	39,778,560		
ソフトウェア	39,778,560		
その他	-		
投資その他の資産	406,709,000		
投資及び出資金	-		
有価証券	-		
出資金	-		
その他	-		
長期延滞債権	-		
長期貸付金	-		
基金	406,709,000		
減債基金	-		
その他	406,709,000		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
流動資産	82,620,964		
現金預金	82,620,964		
未収金	-		
短期貸付金	-		
基金	-		
財政調整基金	-		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
繰延資産	-	純資産合計	553,479,801
資産合計	559,308,660	負債及び純資産合計	559,308,660

行政コスト計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

会計: 全体会計

(単位: 円)

科目名	金額
経常費用	771,189,849
業務費用	702,333,058
人件費	68,304,206
職員給与費	46,156,674
賞与等引当金繰入額	5,154,930
退職手当引当金繰入額	-
その他	16,992,602
物件費等	634,028,852
物件費	605,221,279
維持補修費	-
減価償却費	28,807,573
その他	-
その他の業務費用	-
支払利息	-
徴収不能引当金繰入額	-
その他	-
移転費用	68,856,791
補助金等	68,828,591
社会保障給付	-
その他	28,200
経常収益	2,070,298
使用料及び手数料	-
その他	2,070,298
純経常行政コスト	769,119,551
臨時損失	35
災害復旧事業費	-
資産除売却損	35
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	-
資産売却益	-
その他	-
純行政コスト	769,119,586

純資産変動計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

会計: 全体会計

(単位: 円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	545,889,387	499,246,104	46,643,283	-
純行政コスト(△)	-769,119,586		-769,119,586	-
財源	776,710,000		776,710,000	-
税収等	753,769,000		753,769,000	-
国県等補助金	22,941,000		22,941,000	-
本年度差額	7,590,414		7,590,414	-
固定資産等の変動(内部変動)		-22,558,408	22,558,408	
有形固定資産等の増加		8,629,200	-8,629,200	
有形固定資産等の減少		-28,807,608	28,807,608	
貸付金・基金等の増加		-	-	
貸付金・基金等の減少		-2,380,000	2,380,000	
資産評価差額	-	-	-	
無償所管換等	-	-	-	
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額			-	-
その他			-	-
本年度純資産変動額	7,590,414	-22,558,408	30,148,822	-
本年度末純資産残高	553,479,801	476,687,696	76,792,105	-

資金収支計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

会計:全体会計

(単位:円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	741,922,723
業務費用支出	673,065,932
人件費支出	67,844,653
物件費等支出	605,221,279
支払利息支出	-
その他の支出	-
移転費用支出	68,856,791
補助金等支出	68,828,591
社会保障給付支出	-
その他の支出	28,200
業務収入	778,780,298
税込等収入	753,769,000
国県等補助金収入	22,941,000
使用料及び手数料収入	-
その他の収入	2,070,298
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	36,857,575
【投資活動収支】	
投資活動支出	8,629,200
公共施設等整備費支出	8,629,200
基金積立金支出	-
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	2,380,000
国県等補助金収入	-
基金取崩収入	2,380,000
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	-
その他の収入	-
投資活動収支	-6,249,200
【財務活動収支】	
財務活動支出	-
地方債等償還支出	-
その他の支出	-
財務活動収入	-
地方債等発行収入	-
その他の収入	-
財務活動収支	-
本年度資金収支額	30,608,375
前年度末資金残高	51,338,660
比例連結割合変更に伴う差額	-
本年度末資金残高	81,947,035
前年度末歳計外現金残高	701,958
本年度歳計外現金増減額	-28,029
本年度末歳計外現金残高	673,929
本年度末現金預金残高	82,620,964

注 記

I 重要な会計方針

①有形固定資産等の評価基準及び評価方法

開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得原価とし、取得原価が不明なものは原則として再調達原価としております。また開始後については、原則として取得原価とし再調達は行わないこととしております。

②有価証券等の評価基準及び評価方法

該当事項なし

③有形固定資産等の減価償却の方法

- ・有形固定資産（事業用資産、インフラ資産）
定額法を採用しております。
- ・無形固定資産
定額法を採用しております。

④引当金の計上基準及び算定方法

- ・賞与引当金
翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当のうち、全支給対象期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しております。

⑤リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行っております（少額リース資産及び短期のリース取引には簡便的な取扱いをし、通常の賃貸借に係る方法に準じて会計処理を行っております）。

⑥資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（3ヶ月以内の短期投資等）を資金の範囲としております。このうち現金同等物は、短期投資の他、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含んでおります。

⑦その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理
税込方式によっております。

II 重要な会計方針の変更等

総務省「新地方公会計の推進に関する研究会」報告の「新統一的な基準」の表示方法に合わせるため、大幅な表示の変更を行っております。

III 重要な後発事象

該当事項なし

IV 偶発債務

該当事項なし

V 追加情報

①対象範囲（対象とする会計）

- ・一般会計
- ・ふるさと市町村圏振興事業特別会計

②一般会計等と普通会計の対象範囲等の差異

対象範囲に差異はありません。

③出納整理期間について、出納整理期間が設けられている旨（根拠条文を含みます。）及び出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としている旨、財務書類の作成基準日は、会計年度末（3月31日）ですが、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としております。

（地方自治法 235 条の 5「普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって閉鎖する。」）

④表示単位未満の金額は四捨五入することとしているが、四捨五入により合計金額に齟齬が生じる場合はその旨

齟齬は生じません。

⑤地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況

（注意）地方公共団体財政健全化法における各比率算定の対象と基準モデルにおける会計の対象とは範囲が異なります。

実質赤字比率の算定に必要なとされる事項

実質赤字 -千円
標準財政規模の額 -千円

⑥利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額

-千円

⑦繰越事業に係る将来の支出予定額

継続費通次繰越額	-千円
繰越明許費	-千円
事故繰越額	-千円
事業繰越額	-千円

⑧その他財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

該当事項なし

⑨将来負担に関する情報（地方公共団体財政健全化法における将来負担比率の算定要素）

イ. 一般会計等に係る地方債の現在高	-千円
ロ. 債務負担行為に基づく支出予定額	1,160,729千円
ハ. 一般会計等以外の特別会計に係る地方債の償還に充てるための一般会計等からの繰入見込額	-千円
ニ. 組合等が起こした地方債の償還に係る負担見込額	-千円

ホ. 退職手当支給予定額に係る一般会計等負担見込額	-千円
ヘ. 設立法人の負債の額等に係る一般会計等負担見込額	-千円
ト. 連結実質赤字額	-千円
チ. 組合等の連結実質赤字額に係る一般会計等負担見込額	-千円
リ. 地方債の償還額等に充当可能な基金	-千円
ヌ. 地方債の償還額等に充当可能な特定の歳入	-千円
ル. 地方債の償還等に要する経費として基準財政需要額に算入されることが見込まれる額	-千円

⑩自治法234条の3に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務金額
-千円

⑪純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容

固定資産等形成分とは、資産形成のために充当した資源の蓄積をいい、固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しています。また、余剰分（不足分）とは、消費可能な資源の蓄積（原則金銭）をいい、流動資産（短期貸付金及び基金を除く）から負債を控除した額を計上しています。

⑫基礎的財政収支 30,608千円

⑬既存の決算情報との関連性（上記で示した「②一般会計等と普通会計の対象範囲の差異」に係るものを除きます。）

地方自治法第233条の規定に基づく決算情報との関連性をストック情報（資産・負債）や、現金支出を伴わないコストを発生主義で認識しています。

⑭資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

業務活動収支	36,857千円
-----	-----
減価償却費	-28,807千円
賞与等引当金繰入額（増減額）	-459千円
-----	-----
純資産変動計算書の本年度差額	7,591千円

⑮一時借入金

該当事項なし

⑯重要な非資金取引

減価償却費	28,807千円
賞与引当金等	5,154千円